

令和2年度 事業報告書

当会が令和2年4月1日から令和3年3月31日までに実施した事業についてご報告いたします。潤いのある地域環境づくりに向けて、一般市民や行政の方々と共に、桜の名所づくりや花のまちづくりなどの事業を展開いたしました。

(1) 桜苗木の生産・配布による桜の名所づくりや桜苗木の受託生産と育苗、花や緑を活かした花のまちづくりなどの推進

1) 桜の名所づくり

～桜苗木の生産と配布～

桜を中心とした、美しく潤いのある地域環境づくりの推進を目的に、桜苗木の生産と配布を継続実施し、地元行政や地域住民と一体となった新しい桜の名所づくりを進めました。特に桜苗木の配布に当っては、植栽面積や植栽間隔が充分確保されているか、植栽後の維持・管理体制が明確化されているか、などについて確認した上で実施しました。

～さくらコンシェルジュ～

新しい桜の名所をつくりたい、自分達で植栽した桜を健全に育て新しい名所にしたい、あるいは既存の桜の名所を守り後世に伝えたい、といった地域住民団体等の要望に積極的に応えるため、当会研究員を計画的に現地へ派遣しました。埼玉県久喜市、千葉県鋸南町において、桜の名所の創成、育成、再生・保全を目的として、住民団体の皆さんと共に活動を展開しました。

～桜を通じた災害復興支援～

桜を通じた災害復興支援は10年目となりました。今年度は、千葉県や岩手県などに接木1年生苗木681本をお届けしました。これにより被災地にお届けした桜の苗木は累計で7,096本となりました。

宮城県名取市では、津波に耐えて花を咲かせた桜から接木した後継樹を名取川河口の貞山運河に植樹し、鎮魂と振興の名所にする計画を進めてきました。当会は東日本大震災の直後から苗木育成を指導してきましたが、震災10年目にしてようやく植栽予定地での苗木の植樹が完了しました。

宮城県女川町では、倒壊したままの建物を見せて津波の恐ろしさを伝えることに意義があるとして、鉄筋2階建ての崩壊した旧交番を中心にメモリアル公園を整備して

きました。昨年秋、この公園に隣接するマッシュパークの完成記念として、‘神代曙’ 13本を当会職員の指導のもと、地域住民15人が植栽しました。

岩手県久慈市では、東日本大震災の復興支援に対する感謝を形にしようと、久慈港環境美化協会が中心となって、半崎緑地公園に当会が寄贈した苗木‘神代曙’80本を植樹しました。昨年のテスト植樹した20本と合わせて計100本の‘神代曙’が、久慈市の復興のシンボルとして、また、地域の新たな桜の名所として、立派に成長できるように地域住民が愛着を持って見守って行く予定です。

2) 桜苗木の受託生産と育苗

地方自治体や団体や個人等から委託を受けて、その地域に由来のある桜の苗木を接木により生産・育苗し、貴重な桜の伝承を支援するとともに、桜の名所づくりと国土緑化を推進しました。

福島県浪江町では、同町出身者から寄贈された新品種‘紅房桜’1,000本の苗木が東日本大震災の影響で150本程度に急減したため、250本の苗木生産を当会に委託しました。当会は苗木の受託生産と育苗のみならず、町内各所での植樹管理などのアドバイスも実施しました。

3) 花のまちづくり

花や緑を活かした地域環境づくりに関する委託を受けて、地域の美しい環境づくりへの提言を行いました。

山口県上関町では、「花咲く海の町・上関」推進委託事業を継続して受託しました。城山歴史公園に植樹した‘河津桜’やスイセン等の育成管理指導の他に、地区花壇では高齢化で活動中止地区が増えたことや、花壇に出向くことが大変という高齢者もいるため、自宅周辺に花を植えて楽しむ方法を提言して活動の転換を図りました。

(2) 桜の名所づくりや花のまちづくりに関する講師派遣や講座・シンポジウム等の開催

1) 講師派遣

地方自治体や住民団体等が開催する桜の講習会や勉強会に研究員を講師として派遣しました。

桜に関する講演では、那智が丘桜プロジェクト（宮城県名取市）、相模原市さくらさくプロジェクト推進協議会（神奈川県相模原市）、足立区都市農業公園（東京都）、など、延べ20回・620人を対象に桜の管理・保全や接ぎ木の方法などについて指導を行いました。

また、花のまちづくりに関する依頼にも研究員を派遣して普及啓発を図りました。白嶺幼稚園（石川県小松市）、秋田県花いっぱい運動の会（秋田県秋田市）など、延べ5回・190人を対象に花壇づくりや花のまちづくりについて講義をしました。

2) 桜の保全・管理に関する普及啓発

～サクラ保全管理講座～

桜の樹勢回復の方法や病害虫対策などの技術的・科学的分野と、桜に関する文化的・社会的な分野についての講座を「第18回サクラ保全管理講座」として11月25日に東京都千代田区にある日比谷図書文化館で開催しました。

今年度は、「桜の植物学」を国立科学博物館／名誉研究員・理学博士：近田文弘氏に、「開成山公園内の‘染井吉野’の樹齢の検証」を（一社）日本樹木医会／福島県支部 樹木医：三瓶保之氏に、「桜川のサクラと桜川市の取り組み」を桜川市総合戦略部 ヤマザクラ課専門幹：渡邊雄司氏にそれぞれ講義して頂きました。

会場には樹木医や桜の保全活動を進める住民団体の代表など45名が参加したほか、今回初めて採用したWebでのライブ配信では90名が受講されました。

～全国さくらシンポジウム～

第39回全国さくらシンポジウムを4月9日、10日に岐阜県恵那市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から止む無く中止となりました。

～学び舎の桜プロジェクト～桜を知ろう、守ろう、救おう～

学校の校庭に植栽されている桜に興味関心を持ってもらい、樹勢の衰えた桜を助ける活動や授業を継続して実施しました。

2015年から実施している栃木県立小山北桜高等学校では、小山市思川桜里親協議会の‘思川’育苗活動の一環として、挿し木増殖した桜を高校で植栽しています。1年生36名と2年生14名を対象に、挿し木苗を畑に植える際の注意点をアドバイスするとともに支柱立てを手直ししました。

茨城県日立市では、市内の小学校10校の3年生から6年生を対象として、1時間から2時間の桜授業を実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校と相談した結果、オンライン授業としました。各小学校の要望をヒアリングし、学校や市職員と協働しながらきめ細かい授業を心掛けました。

3) 花のまちづくりの普及啓発

～全国花のまちづくりコンクールの実施～

「第 30 回全国花のまちづくりコンクール」の事務局として、コンクールの質的充実を図ると同時に効率的な運営に努めました。

今回の応募総数は 1,690 件で、大臣賞を始め 101 件が表彰されました。受賞者は、花のまちづくり大賞の農林水産大臣賞に井上善人（兵庫県淡路市）と（株）平井料理システム「仏生山の森」（香川県高松市）、国土交通大臣賞には市民協働「熊谷の力」小江川地区 1000 本桜事業（埼玉県熊谷市）と鈴木良枝・勝義（静岡県袋井市）、文部科学大臣賞には社会福祉法人浄英会 恵和こども園（新潟県長岡市）がそれぞれ選出されました。

また優秀賞には松浦さつき・千春（兵庫県たつの市）など 11 件が、奨励賞には西宮市立段上小学校 園芸美化ボランティア（兵庫県西宮市）など 14 件が選ばれました。さらに入選が 67 件、努力賞が 4 件選出されています。

表彰式は 10 月 22 日に東京都千代田区の東海大学校友会館で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から止む無く中止となりました。

～花のまちづくり優秀事例発表会～

表彰式の前日に開催している「花のまちづくり優秀事例発表会」も同様に中止となりました。その代わりに、第 30 回全国花のまちづくりコンクールでの大臣賞受賞者の活動内容がわかる資料や動画を当会のホームページに掲載して紹介しました。

～全国花のまちづくり地方大会～

地方での花のまちづくりの普及啓発を目的とした第 26 回全国花のまちづくり地方大会を 5 月 23 日、24 日に静岡県浜松市で開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から止む無く中止となりました。

～「こまつの杜」（石川県小松市）での花育～

石川県小松市にある「こまつの杜」において、コマツ OB/OG で結成された NPO 法人みどりのこまつスクスク会の皆さんや、「わくわくコマツ館」のスタッフと一緒に、小松市内の白嶺幼稚園の園児約 50 名を対象に花育を実施しました。

2015 年度から開始した花育も 6 年目となりました。研究員の指導の下、園児たちにスタッフの皆さんがお手伝いする形で、種まきから鉢上げ、花壇づくりなどを一緒に実施しました。感染症防止のため、作業時間の短縮、屋外での活動に限定、高齢者

は不参加とするなど、工夫を凝らして開催しました。

4) 屋上緑化

都市部のヒートアイランド現象の緩和策として注目されているビル屋上の緑化について、コマツビル屋上庭園の維持管理を実施しました。例年実施している一般公開は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1年間中止せざるを得ませんでした。NHKの放送番組で取り上げられるなど、屋上緑化の先進事例として情報発信と普及啓発に努めました。

(3) 桜の品種特性や樹勢回復についての研究、組織培養による苗木生産の研究、桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導

1) 自主研究

～桜の品種特性に関する調査研究～

桜見本園で収集保存している桜の花の形状など、品種特性の画像データ化とその蓄積を進めました。

～桜の樹勢回復に関する試験研究～

結城農場の桜見本園の桜について、樹勢回復に関する試験研究を継続し、全国各地の桜の保全についての技術力を高めました。

～組織培養による桜苗木生産に関する試験研究～

接木生産に代わる技術として組織培養（メリクロン）を活用した桜苗木生産の研究成果を取り纏めました。

2) 受託研究

～桜の樹勢回復に関する調査研究と技術指導～

桜の樹勢回復に関する事業の委託を自治体等から受けて調査研究を行い、病害虫の駆除や枯れ枝の剪定、施肥など、桜老齡樹の樹勢回復の指導と提言を行いました。

- ・ 日立市（茨城県）・・・‘さくらのまちづくり推進事業’の一環で桜樹勢調査
- ・ 幸手市（埼玉県）・・・権現堂堤の桜樹勢回復
- ・ 富士吉田市（山梨県）・・・新倉山浅間公園の桜樹勢回復工事

会員活動の支援について

全国 27 ヶ所の地方会員組織のメンバーは、桜の名所づくりや桜の保護活動、花のまちづくり活動などを積極的に行っています。当会研究員は可能な限り現地に赴いて技術的なサポートを実施しました。活動報告と情報交換を目的として例年開催している地方会員組織代表者会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止しました。

期末会員数（令和 3 年 3 月 31 日現在）

法人会員：270 個人会員：1,458 合計：1,728

以上